



工務部

## SATO KENTO 佐藤 健人

県道佐伯長船線の橋梁下部工において岡山市の令和6年度優良工事施工業者優良表彰を受賞した工務部の佐藤健人は、株式会社アートコーポレーションへの入社以前から下請け業者として、長年協力関係にあった。挫折も成功もすべてを自分の糧にして成長を続けてきた佐藤の軌跡をたどる。

### 協力業者から社員になったきっかけ

2003年（平成15年）ごろからアートコーポレーション専属の協力業者として現場で働いていた佐藤。働きぶりが評価され、たびたび「正社員にならないか」とうれしい言葉をもらっていたが、個人事業主としての挑戦を途中でやめることへの決断ができずにいた。

しかし5年後、結婚したのを機に考えが変化し

ていった。家族を持つとなれば、老後の生活の安定も真剣に考慮しなければならない。厚生年金をはじめ、福利厚生のある環境の中で勤めることが家族を持つ責任だと思い、声をかけてくれていたアートコーポレーションへ、正社員として入社する決意をしたのだった。

### 知識を蓄え、ミスを防ぐ

20代前半は、推進工事で小規模の下水道トンネルを掘る仕事に従事していた。オペレーターとして働き出してから1年が経ち、だいた仕事にも慣れてきたころ、佐藤は今でも忘れられない大きな失敗をしてしまう。掘削していく過程で土を削りすぎてしまったのだ。本来取るべき土量よりも多く土を抜き取ると、地盤が弱くなる。特に夏場は舗装したアスファルトの温度が上がり柔らかくなるため、そこに自動車が走る衝撃が加わると道

路がへこんでしまうのだ。

異常に気づいたのは元請け会社の監督だった。原因が調査され、自分の施工に問題があったと判明したとき、佐藤はこの工事に関する知識が足りていなかったと痛感する。陥没箇所を埋めることで大きな被害は防げたものの、ミスをした自分をふがいなく思った。

この一件以来、少しでもわからないことがあれば積極的に調べるようになった。当時は今ほどインターネットが発達していなかったため、まずは経験豊富な先輩や上司に相談することから始めた。その習慣は今も続いており、おかげで知識はどんどん蓄積され、現在の佐藤をつくりあげていったのである。

### 初めての施工管理に挑戦

2023年、佐藤にとって最も学びになった現場と出合う。それが、のちに優良表彰を受けることとなる県道佐伯長船線の橋梁下部工事だ。2023年3月から翌年3月までという1年間の工期だった。

初めての施工管理とあって、正直、最初は不安が大きかったという。それでも任されたからにはやり遂げたい。途中、天候などの関係で工期が遅れ、無事に期日までに終わらせることができるかハラハラしたが、どうにか予定通りに完工。業者の数を増やしたり天気の状態によって休みをずらしたりするなどして、スケジュール調整をしたのが功を奏した。

### 発注者が求めることを汲み取り、最適解を探る

「この現場は学びにあふれていました。すべてが勉強です。施工管理のノウハウも発注者の方やほかの業者の方から教わるときもありましたし、何より一緒に現場に入ってくださった村上和正さんには、大変お世話になりました」。

大ベテランの村上は豊富な経験をもとにさまざまなアドバイスをしてくれた。発注者の意向を第

一に、どうすれば満足してもらえるかを2人で徹底的に議論。ときには議論が白熱しすぎることもあったが、それも今では良い思い出だ。納得いくまで話し合い、ベストな解決策を導き出していった。地元住民たちの中には厳しい人も多く、納得してもらえるよう対策を徹底。隣の現場で工事をしていた業者は、毎年高得点を獲得する有名な会社だったため、管理の方法で助言を受けたこともある。有益な情報ならば、たとえ相手がライバル企業であっても迷わず受けにいった。

社内外問わず広く話を聞き、発注者の要望に即した提案をしていった佐藤。こうした密なコミュニケーションが、表彰へとつながっていったのである。

今後は、現在保有している土木と建築の施工管理技士以外の資格も取得していきたいという。頼れる存在になるのが目標だ。飽くなき向上心と知識欲を武器に、佐藤はこれからも成長を続けていくに違いない。



# 佐藤健人さん って どんな人?

佐藤さんをよく知る村上さんと角野さんに、それぞれの視点から魅力や人柄を語っていただきました!佐藤さんの仕事への情熱や活躍が、周囲にも良い影響を与えていることが伝わってきます。

## Message To...



### ✓ 佐藤さんとの出会い

出会ったときのことを覚えていないほど、昔からの付き合いです。小学校の頃からなので数十年になります。

### ✓ 印象深い思い出

一つに絞るのは難しいのですが、困ったときには常に最善のアドバイスをくれます。私も佐藤さんにとってそんな存在でありたいと思っています。

### ✓ 佐藤さんの存在

どんな仕事にも全力で取り組む真面目な人です。佐藤さんを見て私も刺激をもらえているので、引き続き真面目でいてほしいと思います。

#### メッセージ

いつも助けてくれてありがとうございます。佐藤さんが頑張っていると思うと私も頑張れるので、たくさん励ましてもらっています!引き続きよろしく願いいたします。



#### 推進工事部

かどの ともや  
**角野 智哉さん**

### ✓ 佐藤さんの第一印象と今の印象

「年齢より若く見えるな」という印象でした。私より佐藤さんの方が先輩ですが、先輩面することなく、質問にも気持ち良く答えてくれて、良い人だなと思いました。今もその印象は変わりませんが、私に対する接し方がかなり砕けてきました。その分、気配りもしてくれます。

### ✓ 印象深い思い出

2023年11月～2024年2月まで、2人で組んで書類仕事をみっちり行ったことがあります。お互い我が強いことから言い合う場面もありましたが、認め合っているため喧嘩にはならず、意見をすり合わせて仕事を進めることができました。

### ✓ 佐藤さんの存在

周囲の高齢化が進んでいる中で、佐藤さんはまだ若く、やる気もあります。これから会社を引っ張っていく存在です。

#### メッセージ

私たちの仕事は、忙しい時期だと休みをなかなか取りづらくなります。朝は早く、夜は遅いことも。服も汚れるため洗濯が大変で、奥さんにも負担になるはず。いつも言っていますが、とにかく奥さんを大切にしてください。



#### 工務部

むらかみ かずまさ  
**村上 和正さん**



社内報

発行日  
毎月月末

# 「アート通信」

が始まります！

社内報「アート通信」を通して、皆さんの仕事に対する思い、各現場での頑張りなどを届けていきます。  
皆さんにとって、毎月届くのが楽しみになるような社内報を製作しますので、ぜひご覧ください！

## 社内報の活用例／

こんなこと  
ありませんか？

他の社員はどのような  
工夫をしているのか  
わからない

仕事の意義を  
考える機会が少ない

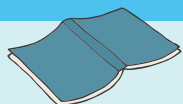
知識はあるけれど、  
部下や後輩へ上手く  
伝えることができない

業務の知識が深まるだけでなく、どんな現場に誰がいて、どんな工夫をしているのかを掲載。読むことで、すぐに実行へ移すことができます！

それ全部社内報で  
解決できます！

周囲がどのようなモチベーションで働いているかを知ることができます！

日頃の業務内では伝えきれないノウハウを社内報を通じて言葉で伝えることができます！



## 今後こんな記事が読めます！

- 各現場に携わった人にインタビューをし、どんな苦労があったのかを深く知ることができる記事
- 自らの取り組みを周囲に伝えたり、他の社員の頑張りから学んだりできる記事
- これから入社してもらう人にアートコーポレーションの良さを知ってもらえる記事としても使うことができる記事

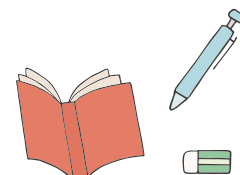
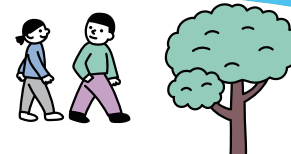


## 私が担当します！／

総務部 おか  
岡さん

### 社内報発行に向けての意気込みとメッセージ

一緒に働く仲間の新たな魅力や、知らない一面に触れられるような社内報にしたいと思います。  
皆さん、ご協力のほどよろしくお願いいたします！



# 現場の力Q

Spotlight! My Worksite.

## ～下中野平井線橋梁下部築造工事～

「現場では、工程通りに進まないのが当たり前」と語る原さんは、この道30年のスペシャリスト。今回の現場も思わぬ事態に陥ったものの、豊富な経験を活かしてどのように対処したのでしょうか……？

工事名 (都)下中野平井線橋梁下部(C1,C3)築造工事(6-1)  
工事場所 岡山市中区平井1丁目地内  
工事内容 橋台工 Cランプ1号橋 橋梁下部工 2基  
場所打杭工(φ1000mm)12本  
橋台工 Cランプ3号橋 橋梁下部工 2基  
場所打杭工(φ1000mm)11本  
現場人数 アートコーポレーション:4名  
協力業者:4～15人(杭工事、大工、鉄筋、土工など)  
計8～19人程度



## 現場の特徴と大変だったエピソード

### 予想以上の地盤の強さ

橋脚の基礎杭を設置するために掘削を開始したところ、地盤調査時よりも浅く強固な地盤が広がっていました。当初予定していた支持層まで掘削するのが困難になったため、設計から変更する必要が出てきたのです。そこで発注者と協議し、杭長を13mから10mまで短くすることに。こうした協議や設計図の変更に時間を費やしてしまいました。

### 埋設物の発見で作業ストップ

施工範囲の事前調査として試験掘を実施していますが、建物を設置する場所に、設計図には記載されていないコンクリート構造物を発見しました。その正体は、道路拡幅の際に埋められていた擁壁。実はこうしたケースは珍しくありません。過去にも同様のケースがあり、「この辺りには何かあるだろう」と予想していました。しかし、このままでは施工に支障が出るため、構造物の詳細を調査した上で発注者に撤去の可否を確認。結果的には取り壊す運びとなりました。



工務部

はら ひろたか

原 宏尚さん

### 現場の概要

工事名 (都)下中野平井線橋梁下部(C1、C3)築造工事(6-1)  
工事場所 岡山市中区平井1丁目地内

工期 令和6年10月25日～令和7年7月18日

発注者 岡山市役所 都市整備局道路部 東部幹線道路建設課

工事内容 橋台工 Cランプ1号橋 橋梁下部工 2基  
場所打杭工(φ1000mm)12本  
橋台工 Cランプ3号橋 橋梁下部工 2基  
場所打杭工(φ1000mm)11本

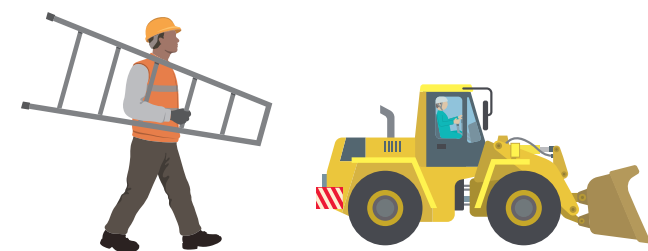
現場人数 アートコーポレーション:4名  
協力業者:4～15人(杭工事、大工、鉄筋、土工など)  
計8～19人程度



## この現場だからこそ意識したこと

### 近隣の皆さんへの配慮

現場では、近隣住民とのトラブルを未然に防ぐため、さまざまな対策を講じました。防塵シートの設置やチラシの配布、低騒音型の機械を導入したほか、騒音・振動計も設置。発生する騒音と振動をリアルタイムで公表することにより、理解を得られるように努めました。



### この現場での学び

## 不可能を可能にする考え方

これまでの経験上、現場が予定通りに進まないケースは珍しくありません。むしろ何か起きるのが当たり前。突発的な問題が発生しても、「できない」ではなく「どうしたらできるか」を考えるようにしました。大切なのは、何かあっても軌道修正が可能なように、余裕のあるスケジュールを組むこと。そして遅れが生じたら迅速に対策を講じるのも重要です。求められるのは、工程を短縮する方法を模索しながら、状況に応じて柔軟に対応する力。問題が起きてもうろたえず、適切に対処できれば、現場での信頼度も上がります。トラブル対応の経験が増えるほど、次回に活かせる対応力は身についていくでしょう。

